

Englische Suiten

Johann Sebastian Bach

J.S. バッハ 六つのイギリス組曲より

第 1 番 イ長調 BWV806

プレリュード (*Prélude*)

アルマンド (*Allemande*)

クーラント I (*Courante I*)

クーラント II と 2 つのドゥーブル
(*Courante II avec deux Doubles*)

サラバンド (*Sarabande*)

ブレー I (*Bourrée I*)

ブレー II (*Bourrée II*)

ジーグ (*Gigue*)

解説付き

●イギリス組曲について

「イギリス組曲」は、「フランス組曲」「パルティータ」と共に、バッハの代表的な鍵盤楽器のための組曲です。いつ作曲されたか、正確なところは分かりませんが、「パルティータ」が最も遅くライプツィヒ時代<38～65才>(1723-1750)の作曲。「フランス組曲」と「イギリス組曲」は、ワイマール時代<23～32才>(1708-1717)の終わりからケーテン時代<32～38才>(1717-1723)にかけてまとめられたもので、作曲もその頃と考えられます。「イギリス組曲」は様式的に見て、「フランス組曲」より早い時期、1722年（一説には1715年頃）の作品だろうと言われています。

名称の由来ははっきりしていませんが、「ある高貴なイギリス人のために書かれた」ためにイギリス組曲と呼ばれるようになったなどの説があります。

6つの組曲からなっており、それぞれ6つの曲を持っています。そして、6つの組曲とも「プレリュード」で始まり、そのあと、「アルマンド」「クーラント」「サラバンド」「ジグ」が続き、「サラバンド」と「ジグ」の間に第1番と第2番は「ブレー」、第3番と第6番では「ガヴォット」、第4番では「メヌエット」、第5番は「パスピエ」が挿入されています。

●第1番 イ長調 BWV806

6つの組曲の中で長調組曲は、第1番と第4番（ヘ長調）の2曲のみです。他の第2・第3・第5・第6番は短調作品となっています。組曲最初の第1番は、6つの組曲の中で早い時期に書かれ、1717年以前に作曲されたと推測されています。

プレリュード (Prélude)

明るく優雅な雰囲気が特徴の第1番のプレリュード（前奏曲）。導入楽章とも言えます。主題はロンドンで活躍したフランス人作曲家デュパール（Charles Dieupart, 1667?-1740）の作品に基づくものと見られています。

装飾記号①は、

②は、

③は、 と演奏して下さい。同様の装飾記号は、同様に演奏して

下さい。

Englische Suiten

Suite I

Johann Sebastian Bach
BWV 806

Prélude

Allegro moderato

f

mp

cresc.

dim.

p

poco a poco cresc.

mf